

麻しんの発生について

千葉市若葉区在住の30歳代の女性が、5月20日（月）に麻しんと診断され、診断した千葉市内医療機関から、管轄である千葉市保健所に麻しんの発生届がありましたので、お知らせします。

千葉市保健所では、感染可能期間中における当該患者の接触者の調査及び健康観察を実施しています。

1 患者等の状況

(1) 患者について

- ア 年代、性別、職種
30歳代、女性、会社員
- イ 症状等
発熱、発疹、咳、咽頭痛、頭痛
- ウ 状態
加療中である。
- エ ワクチン接種歴及び罹患歴
不明

(2) 接触者について

感染可能期間である5月11日（土）以降について、接触者の調査を行うとともに、医療機関等の接触者を特定できる施設については、保健所を通じて対象者の健康観察を実施しています。

2 患者発生の経過

令和元年5月12日（日）発熱、咽頭痛、頭痛症状出現。

14日（火）市内医療機関Aを受診。

17日（金）発疹出現、咳嗽あり。市内医療機関Aを再診。検体採取。

18日（土）市内医療機関Bを受診。

20日（月）市内医療機関Aによる検査の結果、麻しん特異的IgM抗体陽性と判明し、同医療機関Aから千葉市保健所へ麻しん発生届を提出。

千葉市環境保健研究所の遺伝子検査において麻しん陽性と判明。

※ 感染可能期間に患者が利用した公共交通機関はありません。

3 本市における麻しん発生届出受理件数（千葉市内医療機関からの受理件数）

	平成25年	平成26年～平成30年	平成31年
届出件数	11件	0件	2件

※令和元年5月21日現在（本件を含む）

※今回の記者発表で、平成31年の千葉市内在住麻しん患者の発生は3人目ですが、平成31年2月15日に記者発表した千葉市内在住の麻しん患者は、他自治体の医療機関で診断されたため、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の規定により医療機関を管轄する自治体で発生届出を受理しているため、上記件数には計上していません。

<参考>

1 麻しんの症状

感染すると通常10～12日後に38℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血などが約2～4日間続き、解熱後、再び39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われており、死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。

2 感染経路

麻しんは麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。麻しんウイルスの主たる感染経路は空気感染で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。

また、発症した人が周囲に感染させる期間（感染可能期間）は、症状が出現する1日前から解熱後3日間まで（全経過を通じて発熱がみられなかった場合、発疹出現後5日間まで）と言われています。

3 感染予防策

麻しんは予防接種が有効であり、2回定期接種の機会があります。

- ・第1期：1歳以上2歳未満
- ・第2期：5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間

また、麻しんを発症した場合、学校や職場等で感染を拡大させる恐れがあるため、母子手帳などで予防接種歴を確認し、定期予防接種を2回受けていない方や予防接種歴が不明な方は、かかりつけ医などに相談の上、接種を検討する必要があります。

なお、麻しんを疑う症状が現れた場合は、感染拡大を防止するため、事前に医療機関に電話連絡でその旨を伝え、医療機関の指示に従い受診する必要があります。

また、受診時は、周囲への感染を防ぐため、公共交通機関等の利用を避ける必要があります。

4 潜伏期間

約10日～12日間（21日間程度の場合もあります。）

5 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

6 海外での感染症情報について

海外では、渡航先によっては様々な感染症が流行している場合があります。海外渡航の予定がある方は、厚生労働省検疫所のホームページ（<https://www.forth.go.jp/index.html>）等で渡航先の感染症情報を確認するとともに、予防接種実施の検討等、適切な感染予防を心がける必要があります。